



### 特色を活かした姉妹都市交流

(一財)自治体国際化協会パリ事務所 所長補佐  
灰屋 英成 (石川県金沢市派遣)、金城 一志 (熊本市派遣)、阿部 耕也 (新潟市派遣)

#### 金沢市・ナンシー市 姉妹都市提携 50 周年記念事業 ～世界に誇る伝統文化を披露～

所長補佐 灰屋 英成 (石川県金沢市派遣)

金沢市とナンシー市は、1973 年の姉妹都市提携以来、学術・文化、工芸、教育、スポーツなど、幅広い分野で交流を継続し、2023 年、両市は提携 50 周年の節目を迎えました。

9 月 27 日にナンシー市で開催された両市の姉妹都市提携 50 周年記念式典には、村山卓市長を団長とする金沢市代表团、高誠金沢市議会議長を団長とする金沢市議会団、地域圏立ナンシー大学病院と協定関係にある金沢市立病院代表团、ロレーヌ仏日協会と交流を続ける金沢日仏協会が参加しました。

両市の姉妹都市提携のきっかけを作ったナンシー市民、過去に留学やインターンシップ、創作活動を通じ本市に滞在経験のある学生・アーティストなど、これまでの交流に縁のある方々が多数見守る中、村山市長とマチュー・クラン ナンシー市長が、50 年にわたる両市の交流の歴史を確認するとともに、今後の交流の促進と、SDGs 達成に向けた協力などを盛り込んだ新たな合意書に調印しました。

また、代表団の訪問に合わせ、金沢市が世界に誇る伝統文化である、食、金箔、能楽それぞれの専門家が、ナンシー市でその技術や知識を披露しました。料理人の 2 人は、ナンシー市のシェフと交流しながら、金沢の郷土料理「えびす」などの一品を式典で提供し、式典の参加者約 120 人は、金沢の伝統の味を堪能することができました。「縁付金箔」の職人の 2 人は、ナンシー市庁舎で行われたスタニスラス広場世界遺産登録 40 周年を記念した講演会で、縁付金箔の歴史や特徴に関する講演と

実演を行い、終了時間を超えても聴講者から質問が相次ぐほど、高い関心を集めました。能楽団の 2 人は、現地の美術大学で能装束や能面に関する講義を行い、学生たちから「奥深い能の世界に魅了された」との感想が寄せられました。提携 50 周年という記念すべき年に、金沢が大切に守り、育み、ユネスコ無形文化遺産にも登録されている「和食」、「縁付金箔」、「能楽」の伝統を、それぞれの第一人者によりナンシー市の方々に披露できたことはとても意義深いものでした。



新たな合意書に調印する両市長

#### 熊本市・エクサンプロヴァンス市 交流都市提携 10 周年記念事業実施

所長補佐 金城 一志 (熊本市派遣)

2023 年、熊本市とエクサンプロヴァンス市 (エクス市) は交流都市提携 10 周年を迎えました。これを記念して、5 月 28 日から 31 日にかけて、ソフィ・ジョワサン市長を団長とするエクス市代表团が熊本市を、9 月 30 日から 10 月 3 日にかけて、大西一史市長を団長とする熊本市代表团がエクス市をそれぞれ訪問し、記念事業が実施されました。

熊本市とエクス市の交流は、1980 年代の熊本日仏協会によるエクス市訪問をきっかけに始まり、1992 年、熊本市在住の能楽師・狩野瑋鵬氏による総檜の能舞台のエクス市寄贈により交流を深め、2013 年に交流都市協

定が提携されました。その後、現在に至るまでさまざまな分野で交流を深めているほか、日仏両国の自治体が一堂に会し、日仏で相互に開催される日仏自治体交流会議においても、第6回会議を熊本市で、第7回会議をエクス市で開催するなど、両市は日仏交流に積極的に取り組んでいます。

熊本市代表団のエクス市訪問時には、能舞台および熊本市が技術協力を行って造園した日本庭園があるサンミトル公園において、熊本の秋のイベント「水あかり」をイメージした演出が行われました。公園には両市の関係者のみならず多くのエクス市民が訪れており、熊本を拠点に日本中で活躍する竹あかり演出家がエクス市の緑地部とともに作り上げた竹の作品や、両市の子どもたちが制作した三角灯籠などで彩られた能舞台周辺は、両市長によるライトアップの瞬間、幻想的かつ温かい雰囲気にも包まれました。また、記念式典においては、村田在マルセイユ総領事からエクス市に対し、日仏交流への貢献に敬意を表する外務大臣表彰が授与されるなど、両市の交流は日仏関係の強化に大きく寄与しています。さらに、訪問期間中は、記念事業のみならず教育現場の視察やエクス市総合病院での予期せぬ妊娠への支援体制に関する情報交換など、実務的な交流も実施されました。

これまで両市の交流に携わった関係者への感謝の気持ちが伝わりると同時に、未来に向けた官民のさらなる交流深化を期待させる記念事業でした。



サンミトル公園でのライトアップの様子

## 新潟市－ナント市 姉妹都市提携15周年を見据えた交流

所長補佐 阿部 耕也（新潟市派遣）

2023年10月5日から9日にかけて、中原八一市長を団長とする新潟市代表団が姉妹都市ナント市を訪れ

した。今回の訪問は、ナント市がスポーツに関する姉妹都市会議をラグビーワールドカップ2023フランス大会の開催に合わせて企画したことによるものです。

当該会議には、ナント市と姉妹都市提携を結ぶ3つの都市（新潟市、トビリシ市（ジョージア）、カーディフ市（ウェールズ））が招かれました。会議では「スポーツを通じた参加：市民的価値とオープンな国際性」をテーマにディスカッションが行われ、各都市の代表者が各都市の施策の違いに興味深く耳を傾けながら、積極的に意見交換を行う様子が見られました。

会議終了後、中原市長は4年ぶりにジョアナ・ロランナント市長と対面での対談を行い、2024年に迎える姉妹都市提携15周年に向けた連携について意見交換を行いました。両都市はこれまで食文化交流に取り組む意向に合意していましたが、今回の対談で新たに、青少年交流もテーマに加えることで一致し、さらなる交流分野の拡大が図られる見込みとなりました。

そのほか、10月8日にナント市で行われたラグビーワールドカップ日本対アルゼンチン戦の試合終了後、ナント市中心部に設けられたパブリックビューイング会場に新潟市長が登壇し、新潟市の魅力である自然や歴史、文化、食について、映像を流しながらPRを行いました。終了後には、ナント市で日本文化に親しむ多数の団体と交流を図ったほか、来場者に米菓や観光パンフレットを配布し新潟市の魅力発信を行いました。

前述のとおり、新潟市とナント市は2024年に姉妹都市提携15周年を迎え、それに伴い記念事業の実施を予定しています。両都市の姉妹都市としてのつながりを再認識するとともに、市民との直接の交流を通してナント市での日本文化の広がりを肌で感じた今回の訪問は、記念事業の成功を予感させる大変貴重な機会となりました。



パブリックビューイング会場で新潟市の魅力についてPRを行う中原市長